

## 基本政策 2 持続可能な生活環境で過ごす

### 【基本政策の方向性】

市民が自然からの恵みを享受し、自然や地球環境を守りながら、将来にわたり快適な生活を維持するとともに、持続可能な生活環境で過ごせる“まち”を目指します。

### 5年後の目指す姿

#### 「身近な環境を守る活動の充実」

省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入啓発を行うとともに、ごみをなるべく出さず、できるだけ資源として使い、使えないごみはきちんと処分を行うことで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り減らすなど、身近な環境を守る活動の充実を目指します。

【数値目標】	現状値	目標値
廃棄物の減量化及び資源の循環利用の推進	— ⇒	維持・向上 (各基本施策のKPIの全てを達成)

### 基本施策

#### 2-1 資源の活用（省エネ・再生可能エネルギー等）

「富士見市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき、市民、事業者、行政が一体となって温室効果ガスの削減、再生可能エネルギーの普及など資源の活用を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
温室効果ガスの排出量削減	412,451t（H26） ⇒	344,116t（R4）

※目標値については、計画期間中に更新予定

#### 【主な取組】 再生可能エネルギーの活用促進

分散・循環型エネルギー社会の構築に向け、再生可能エネルギー機器等の設置に対する奨励制度により普及啓発を継続するとともに、多様な再生可能エネルギーの活用を促進します。

【KSF】	現状値	目標値
地球温暖化防止活動支援補助金交付件数	66 件/年（R1） ⇒	80 件/年（R7）

## 2-2 地球温暖化対策の推進

温室効果ガスの排出実態と特性を把握し、具体的な削減目標の設定や温室効果ガスの排出抑制、みどりの保全などの取組を進め、地球温暖化対策を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
温室効果ガスの排出量削減（市事務事業）	7,876,366kg（H30）⇒	7,394,000kg（R3）

※目標値については、計画期間中に更新予定

### 【主な取組】 温室効果ガス吸収源対策の推進

みどりの保全に努めるとともに、その大切さを啓発していきます。また、多くの公共施設において、壁面緑化など温室効果ガス吸収源対策の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
公共施設壁面緑化実施施設数	22 施設（R1）⇒	32 施設（R7）

## 2-3 ごみの減量化の推進

「一般廃棄物処理基本計画」に基づき廃棄物施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、市民、事業者に向けたごみのリサイクルの取組を啓発し、ごみの減量化を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
ごみ総排出量	29,490 t（H30）⇒	28,741t（R7） ※次期計画で再設定

### 【主な取組】 ごみの発生抑制

食品ロスやプラスチックなどのごみの発生抑制を推進するため、4 R<sup>1</sup>の普及啓発を図り、ごみの発生抑制に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
1人1日当たりのごみの量	728 g（H30）⇒	709 g（R7） ※次期計画で再設定

<sup>1</sup> 1.リフューズ（ごみの発生回避） 2.リデュース（ごみの排出抑制）、3.リユース（再利用） 4.リサイクル（再資源化）の4つに取り組み、ゴミを減らす運動

## 関連する SDGs ゴール



再生可能エネルギー等の設置に対する奨励制度の普及啓発を継続することで、再生可能エネルギー機器の普及を促進します。 関連ターゲット（7-2）



廃棄物の発生抑制、削減、再生利用、再利用により、ごみの減量化・資源化を推進します。 関連ターゲット（12-3、12-5）



気候変動に対する早期警戒に関する啓発に取り組むため、市民、事業者に対し、壁面緑化の有効性を広く周知します。 関連ターゲット（13-3）



不法投棄されるプラスチックごみの削減することにより、河川を経由した海洋汚染を防止します。 関連ターゲット（14-1）



みどりの保全の重要性を普及啓発することで、将来にわたり保存樹林等が保全されるよう努めます。 関連ターゲット（15-1、15-2）



ごみの減量化・資源化を推進するため、市民、事業者、行政のパートナーシップを構築していきます。 関連ターゲット（17-16、17-17）

## 関連計画等

第2次富士見市環境基本計画改定版（平成30年度～令和4年度）

第3次富士見市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（平成29年度～令和3年度）

富士見市一般廃棄物処理基本計画第2次計画改訂版（平成28年度～令和2年度）

## 関連部署

自治振興部 環境課

